

## 温室効果ガス排出量の推計方法の概略

< エネルギー起源CO2排出量の算定式 >

活動量

×

活動量あたりの  
エネルギー消費量

×

エネルギーごとの  
温室効果ガス排出量

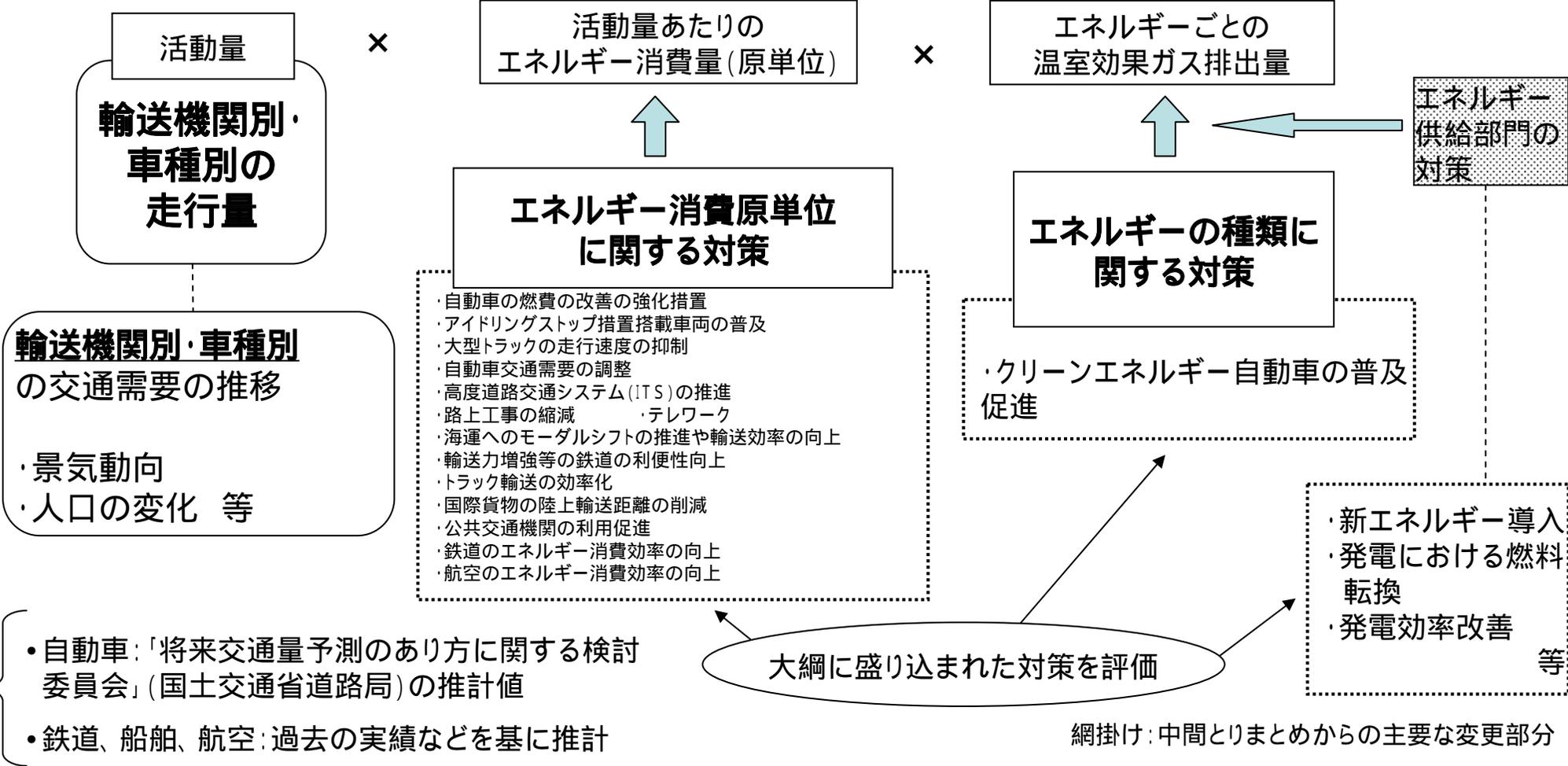
=

温室効果ガス排出量



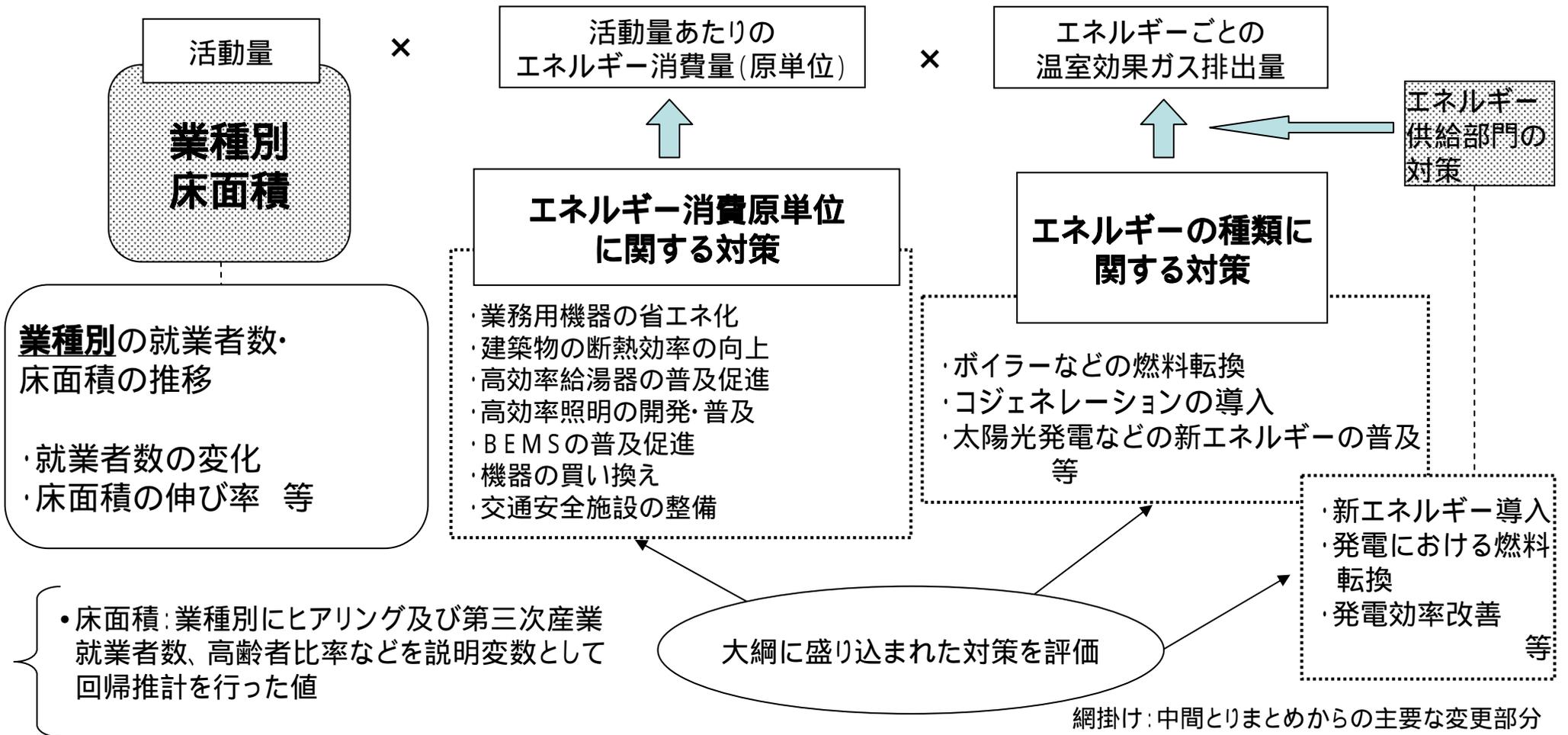
# 運輸部門

自動車燃費の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、乗用車の交通需要の伸び等により、温室効果ガスの排出量が増加。



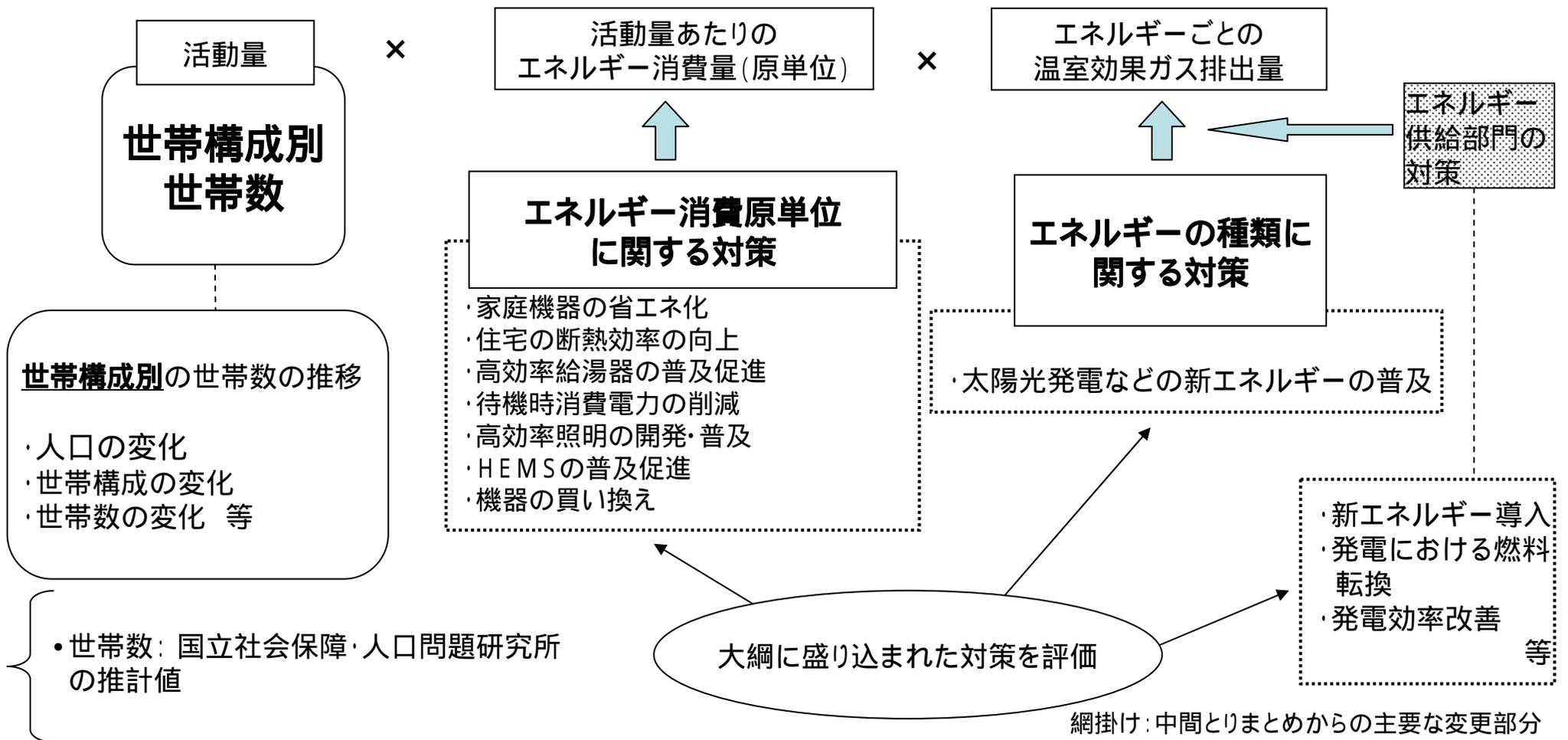
# 業務その他部門

機器の効率の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、床面積の増加等に伴いエネルギー需要が増加し、温室効果ガスの排出量が増加。



# 家庭部門

機器の効率の改善等によりエネルギー消費量の伸びが抑制される一方、世帯数の増加等に伴いエネルギー需要が増加し、温室効果ガスの排出量が増加。



< エネルギー起源CO2以外の温室効果ガス排出量の算定式 >

活動量

×

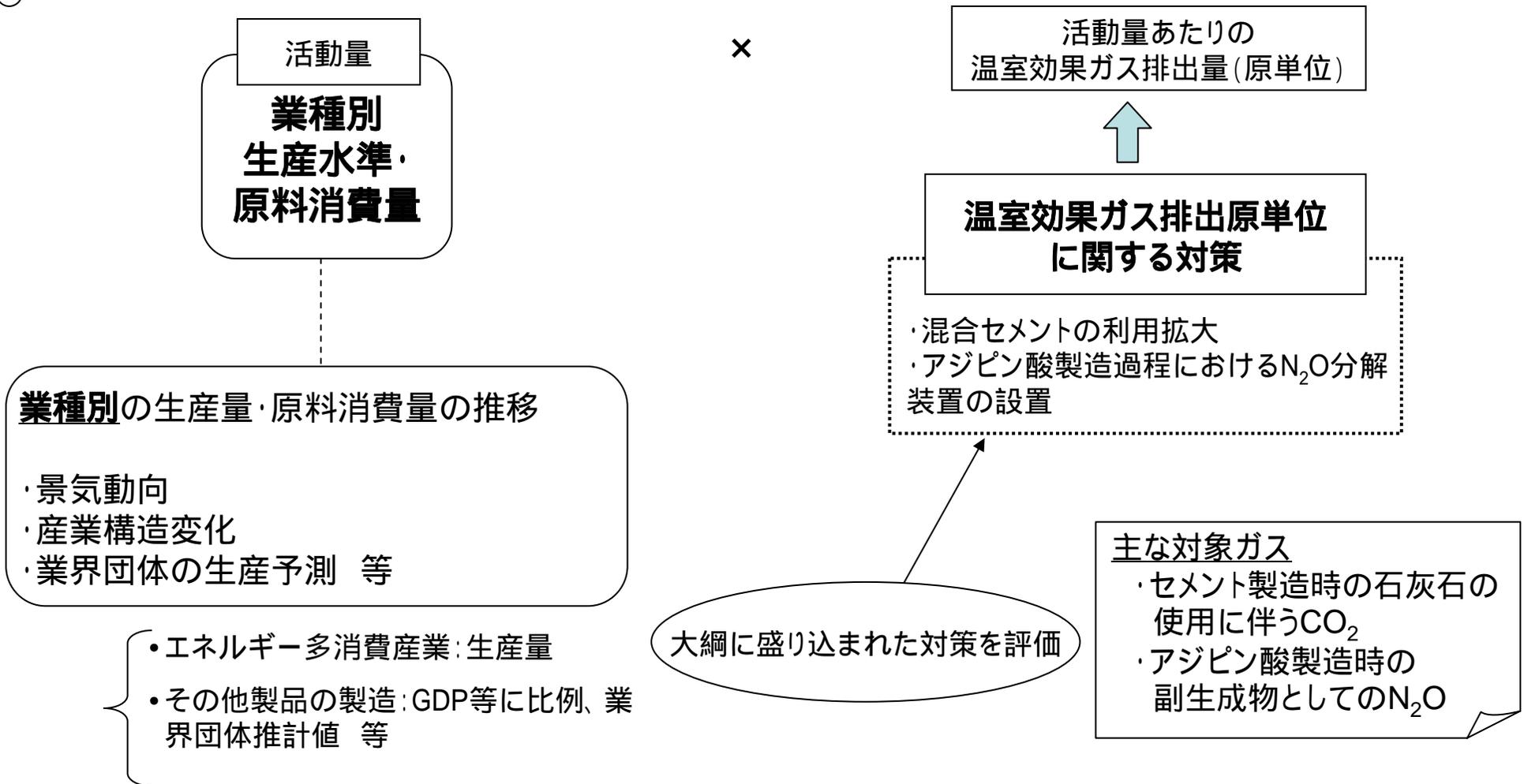
活動量あたりの  
温室効果ガス排出量

=

温室効果ガス排出量

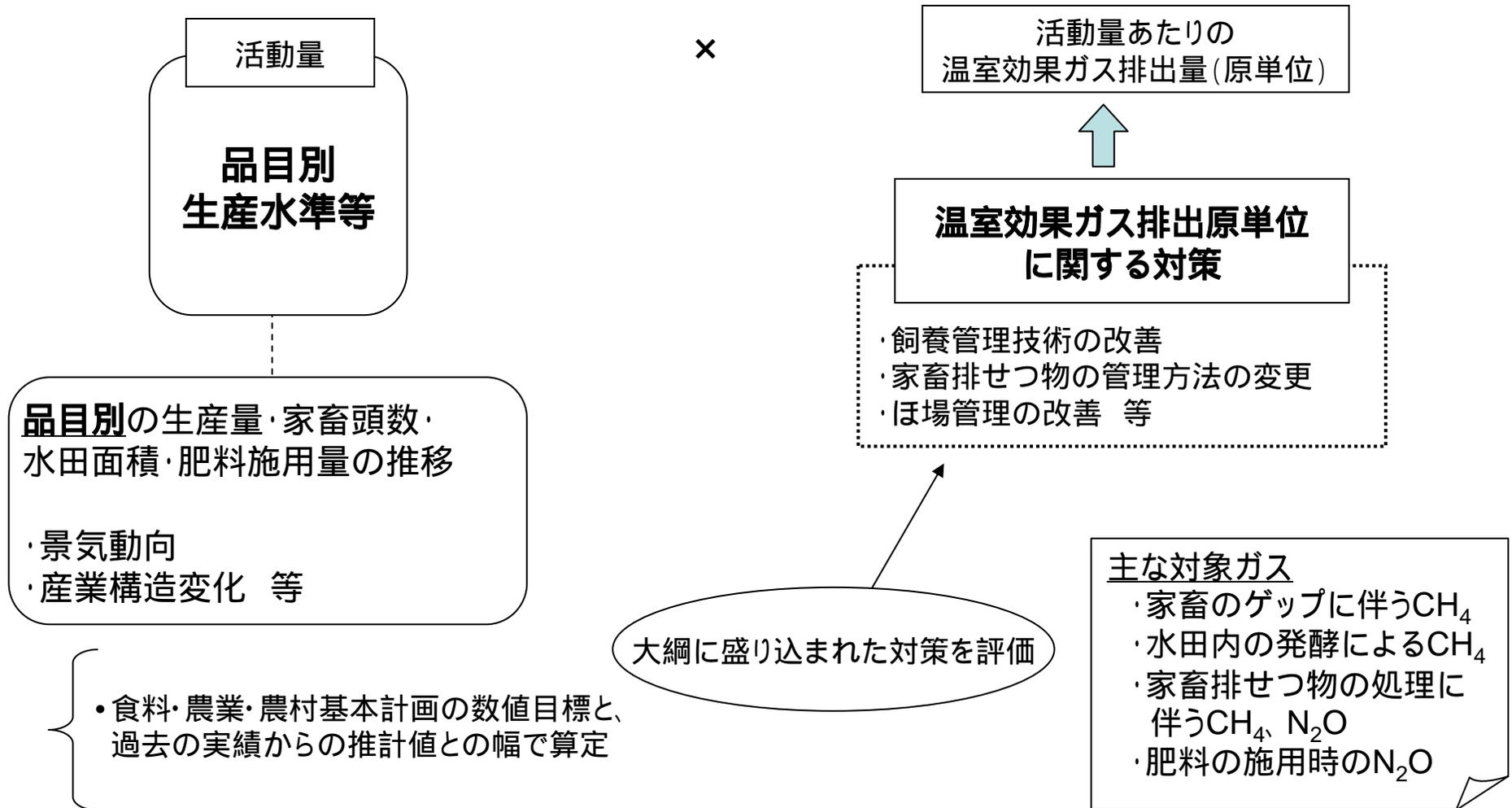
# 工業プロセス部門

生産量・原料消費量の減少等により、  
温室効果ガスの排出量が減少。



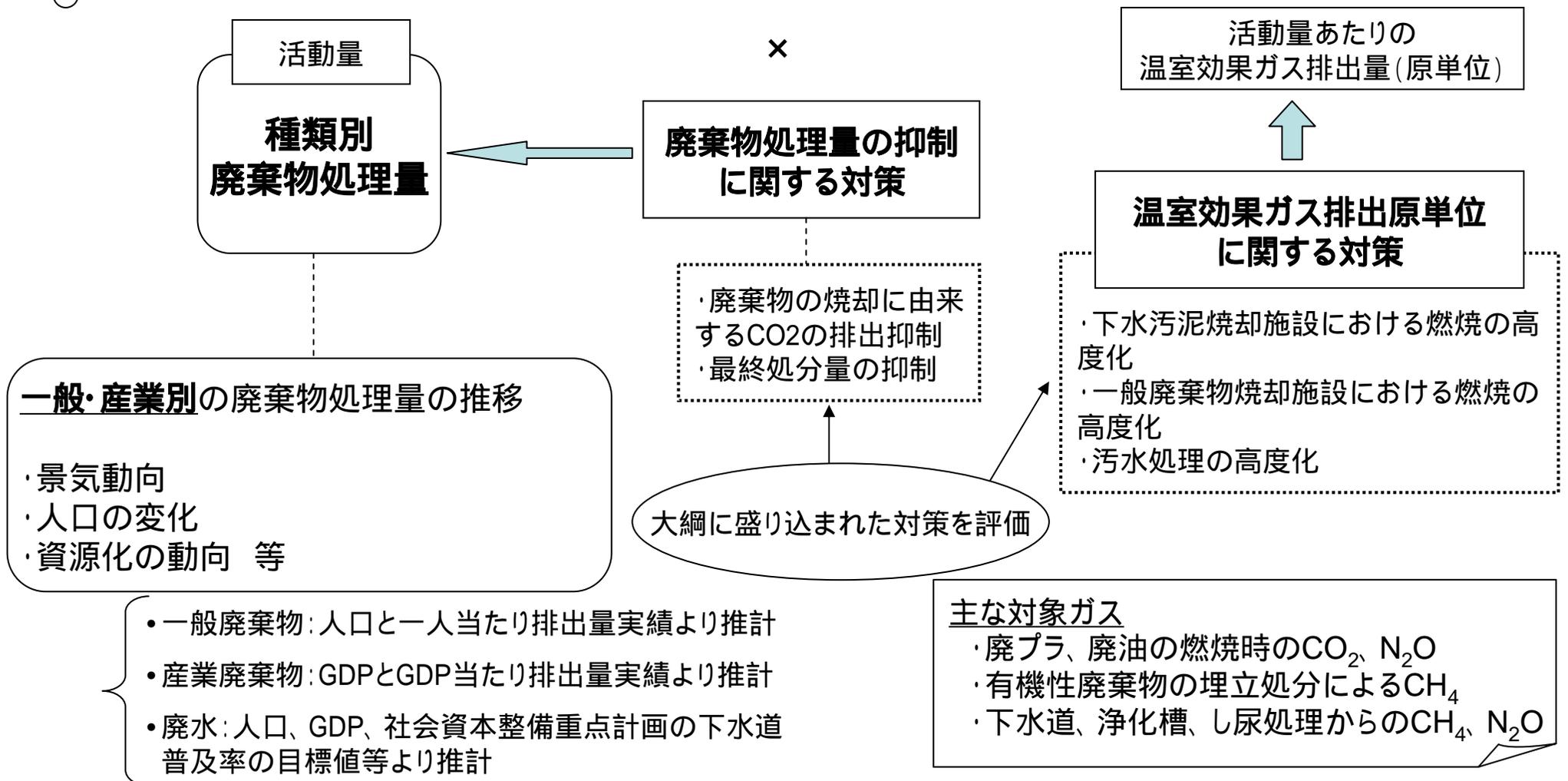
# 農業部門

生産量等の減少により、  
温室効果ガスの排出量が減少。



# 廃棄物部門

再資源化の促進や廃棄物の高度処理等により、  
温室効果ガスの排出量が減少。



# 代替フロン等3ガス部門

冷媒の回収等により排出原単位が改善される一方、生産量・使用量の増加に伴い温室効果ガスの排出量が増加。

